

研究開発だより

Vol.2

「光輝(かがやき)」で資質・能力を働かせ、輝いている子どもたちの様子をお届けいたします!



広島大学附属三原学校園長 木村 博一

「光輝(かがやき)」カリキュラム開発がめざすもの

広島大学附属三原幼稚園・小学校・中学校は、文部科学省の研究開発学校に指定され、「光輝(かがやき)」のカリキュラム開発に取り組んでいます。

平成30(2018)年度から令和4(2022)年度にかけての5年間の研究開発課題は、「高度に競争的でグローバル化された多様性社会に適応するために求められる、3つの次元(躍動する感性・レジリエンス・横断的な知識)の基礎となる資質・能力を育成する幼小中一貫教育カリキュラムの研究開発」です。具体的には、①道徳・特別活動・総合的な学習の時間のすべての時数と各教科の4分の1程度までを含んだ新領域「光輝(かがやき)」を小学校・中学校に設置して単元開発に取り組む、②幼稚園では新領域につながる「光輝(かがやき)視点の保育」で3つの次元の基礎となる資質・能力の育成に取り組んでいます。このような「光輝(かがやき)」のカリキュラム開発を通して、自ら学ぼうとする姿勢、論理的に問題を解決する力、粘り強く取り組む力、複眼的に思考する力、人間味溢れる豊かな感性、未来を創造する力などを子どもたちに育成していくことをめざしています。

今回は視点を変えて、よりわかりやすく解説していきます。

わが国の学校教育は、国語や算数などの教科を軸として成り立っています。各教科の学習では、主に知識の習得や能力形成がめざされています。保護者の皆様も、このような学校教育を受けてきた世代ですから、教科学習のイメージは共有されていることと思います。

さて、教育に求められるのは知識の習得や能力形成だけではありません。人間としての在り方・生き方を育むことは、教育の最も大切な課題です。このような態度育成を主に担ってきているのが、道徳です。しかし、日本の小・中学校では、道徳の時間は週に1時間しか割り当てられていません。

例えば、「友だちを大切にしよう」などと逸話を読んで勉強したとしても、実際の場面を踏まえてイメージ豊かに考えることができなければ、絵に描いた餅で終わってしまいかねません。大切なのは、知識と態度を結びつけること、いかにすれば、教科の学習と道徳の学習を如何に結びつけるのかということです。

この課題に取り組んでいるのが、附属三原学校園の「光輝(かがやき)」の学習です。社会科や理科などの教科で学んだ知識を結びつけ(「横断的な知識」)、さらには、自分の在り方・生き方とも結びつけながら、自分の考えを深めていくのです。独創性のある自分の考えは、簡単に構築できるものではありません。様々な本を読み、情報を収集し、友だちの考えと照らし合わせながら、自分の考えを粘り強く更新し続けていくことになります。誰かからの受け売りであれば、「自分の考えは本当に正しいのだろうか」という不安は芽生えてきませんが、自分で構築した考えであれば不安は常につきまってきます。確かめずにはいられなくなります。このような過程で育成されるのが、「レジリエンス」(粘り強さ)です。そして、様々な側面から人間としての在り方・生き方の見方・考え方を深めていけば、そこに「躍動する感性」が育まれていくことになります。これが、附属三原学校園の「光輝(かがやき)」のカリキュラム開発がめざしている学習の姿です。

附属三原学校園の教職員は一丸となって、「光輝(かがやき)」のカリキュラム開発に取り組んでいます。保護者の皆様におかれましては、本学校園の特長と研究開発学校制度の趣旨をご理解の上、私たちの取り組みについてご意見をお聞かせいただくとともに、研究開発に関わる諸活動にご協力をいただきますようお願いいたします。

